

Navidad イベリアのクリスマス Natal

«Olé»

17 de diciembre/dezembro, 2010

Marie Mine (canto) – Masami Takaba (guitarra)

うた：峰 万里恵 ギター：高場 将美

I

1. 生まれたばかりの幼子に栄光あれ Gloria al recién nacido

スペイン、アンダルシア地方クリスマス民謡 編：ニーニョ・デ・グローリア Niño de Gloria

ニーニョ・デ・グローリアはヘレスに生まれ育ったヒターノ（スペインのロマ、ジプシー）で、とても人気者だったフラメンコの歌手です。プレリアという速いリズムの即興的な歌が得意でしたが、なかでも絶賛されたのが、クリスマス民謡をプレリア・スタイルにしたものでした。芸名（というか、通称）の《グローリア（栄光）》は、この歌詞から付けられたのです（本名：ラファエル・ラモス・アントゥーネス。1954年にセビージャで没、61才）。

さて、赤ちゃんは泣いていたので、もっとかわいく見えた。涙が真珠になった。栄光あれ！ 祝福された母親には勝利を！ 生まれたばかりの幼子に栄光を！

聖母様は赤ちゃんの着るものを縫い、おむつを編んでいた、澄んだ月の光線で。喜び、喜び、ベツレヘムに、今夜生まれた、1輪のバラから、このカーネーションが。

聖母様はお乳を上げていた。赤ちゃんはニコニコ笑っていた。父親ヨセフ様はいいおじいさん、よだれを垂らして喜んでいた。栄光あれ！

つばめよ、つばめ、どこにおまへの巣を作った？ このベツレヘムの軒先に、その花咲くバラの木のそばに。喜び、喜び、ベツレヘムに、今夜生まれた、1輪のバラから、このカーネーションが。



★ ヘレスのクリスマス

2. つめたい明るさ Fria claridade

リスボン（ポルトガル）のファド 詩：ペドロ・オーメン・ド・メロ Pedro Homem de Melo

曲：ジョゼ・マルケシュ・ド・アマラル José Marques do Amaral

ペドロ・オーメンは、ポルトガル北部の出身の文学者で、故郷の伝統を守り伝える歌と踊りのグループを指揮して音楽・舞台活動もしたことがあります。首都リスボンに上京してきたときのこの詩を、ファド女性歌手のアマーリア・ロドリゲシュさんが詩集で読んで感動し、詩人の許可を得て、昔のギターラ（ポルトガル独自のギター）奏者が作った、このメロディに乗せてうたいました。詩人は、「わたしのつくったことばが、アマーリアさんによって、さらに多くの人に伝えられた」と感謝しています。

あの、あんなにも悲しい日の明るさのまんなかで、大きかった、街は大きかった。

そしてだれも、わたしのことを知らなかった。

そのとき わたしのところを通り過ぎた、後に美しいふたつの目。

わたしは夢を見ているのだと思った。とうとう、そのふたつしかないような ふたつの目を見て。

わたしのすべての感覚の中に、わたしは神の予感を

もった。

あの あんなに美しい両目は、わたしの両目から離れていった。

わたしは目を覚まし、明るさはもっと大きく、もっと冷たくなった。

大きかった、街は大きかった。そしてだれも わたしのことを知らなかった。

3. クリオジータ・サンティアゲーニャ *Criollita santiagueña*

アルゼンチン、フォルクローレ 作詞：アタウワルパ・ユパンキ *Atahualpa Yupanqui*

作曲：アンドレース・チャサレータ *Andrés Chazarreta*

タイトルを訳せば「サンティアゴの土地っ子女性」。サンティアゴは、アルゼンチン北西部にあり、多数の先住民（インカ帝国からやってきた）と少数のスペイン人が400年ほど前に移住してきて開発し、独自の文化をもった州です。この曲は、この土地のフォルクローレを研究したギタリストで（本職は公務員だった）、後には民俗芸能団を率いて大きな普及活動をした巨匠チャサレータが作曲あるいは採譜編曲したもので、形式は《サンバ》、スカーフを振りながら男女カップルで踊る、求愛のダンスです。1916年に楽譜出版されました。歌詞は、ずっと後年になって、これまた巨匠（作詞・作曲・ギタリスト・歌手・文筆家）のユパンキが付けました。

サンティアゴの土地っ子女性、褐色の肌のきれいな娘。おまえのおかげで空気はいっぱいになる、サンティアゴの恋歌のしらべで。

わたしの土地のいなかな娘、黒いまつげ。サンティアゴの朝に咲く、おまえは林の花。

おまえが貯水池から水を運んでくるとき、昼寝の時間が、おまえの歌声で甘くなる。

サンティアゴの土地娘、編んだ黒髪。おまえゆえに男たちはうたう、サンティアゴの恋歌ビイダリータを。

ほかの人たちは、街のしゃれた女性をほめそやすだろう。でも、野のかわいいむすめ、わたしは おまえの午後にうたいたい、この おまえの目のように素敵なサンバを。

4. ラ・ペレグリナシオン（大草原の聖家族） *La Peregrinación*

アルゼンチン、フォルクローレ 作詞：フェリクス・ルーナ *Félix Luna*

作曲：アリエール・ラミーレス *Ariel Ramírez*

パンパ草原のリズム《ウエージャ——「わたちの跡」の意》に乗って、聖家族は、とんでもないところに、さまよってきました。1964年発売の、フォルクローレによるミサルレコードのB面だった、創作クリスマス曲のひとつです。

人の踏んだ跡をたどって、ヨセフとマリア、凍りついた大草原を、アザミとイラクサのなかを。

野を横切って、休みどころも宿もない。歩みつづけなさい。

野の小さな花、風に乗って運ばれる 根のない花。あなたはどこで生まれるのか、おびえた小鳩よ、夢を見られないコオロギよ。

人の踏んだ跡をたどって、遠くから来た旅人たち。

——小屋をひとつお貸しください、わたしの男の子のために。アーモンドの小さな目、オリーブの実の肌。

野のロバさん、こげ茶色の牛。わたしの男の子がもうやってくる。場所を空けておくれ。

よしず屋根の小屋、それだけがわたしを守ってくれる。ふたつの友だちの息と、澄んだ月。

人の踏んだ跡をたどって、ヨセフとマリア。隠れた神様ひとり連れて。だれも知らなかった……

5. ひとつの愛ゆえに *Por un amor*

メキシコ歌曲 作詞作曲：ヒルベルト・パーラ *Gilberto Parra*

作者はハリスコ州出身。この曲が発表されたのは1940年ですが、そのころはラジオ放送局の音楽スタッフでした。その後、長いあいだCBSレコードで芸術監督（プロデューサー・指揮者などをつとめる）をしていました。

ひとつの愛ゆえに、わたしは夜も眠れず受難のなかに生きる。

わたしにはひとつの愛がある。それはわたしの人生に、いつまでも にかい痛みだけを残していった。

ひとつの愛ゆえに、わたしの涙は心臓の血のしずくだった。それはわたしに傷ついた魂を残していった、あわれみもなく。

あわれなわたし！ この人生に終わってほしい。それはわたしのためものではない。

あわれなわたし！ アイ 心よ。あわれなわたし！ もう悩まないで。

どれほどわたしの胸は苦しんでいることか、あなたのためだけに鼓動して。

6. ラ・ジョローナ (泣き女) *La Llorona*

メキシコ、オアハーカ地方伝承曲 *Canción tradicional oaxaqueña*

メキシコでいちばん精霊が住んでいる感じを受ける土地——他の土地の人からは反対を受けそうな言い方ですが——オアハーカ州の伝統曲です。かつて日本では、他地方のウワパンゴのリズムのスタイル（裏声が入る）で、より有名だったかもしれません。「泣き女」伝説は、メキシコが原点ですが、アメリカ合衆国の南部から南アメリカの先端にまで流布しています。

みんながわたしを「ネグロ」と呼ぶ、ジョローナ、黒いけれども 心やさしい男。わたしは緑のチレのよう、辛いけれども おいしい。

アイ あわれなわたし、空の青色のジョローナ。たとえ命と引き換えになっても、わたしはおまえを愛することをやめない。

ある日おまえは教会から出てきた、ジョローナ。通りすがりにわたしがおまえを見たとき、おまえは美しいウィピルを着ていた。わたしはおまえを聖処女だと信じた。

アイ あわれなわたし、ユリの野のジョローナ。恋のことを知らない者は、受難がどんなものか知らない。

もし わたしが愛しているからといって、ジョローナ、もっとわたしを愛することを望んでいるのなら。もうおまえに命を与えてしまったのに、もっと何がほしいのか？ 何をもっと？

アイ あわれなわたし、ジョローナ。ジョローナ わたしを川へ連れて行って、おまえのレポーズで覆っておくれ。ジョローナ、わたしは寒さに死んでゆくだけだから。

7. わたしは幼子イエスを見た *Vi o Menino Jesus*

作詞：アマーリア・ロドリゲシュ *Amália Rodrigues* 作曲：カルロシュ・ゴンサウヴシュ *Carlos Gonçalves*

ファドというジャンルを超えて、ポルトガルの生んだ、世界最高の女性歌手と、彼女と共演したギター奏者・音楽監督の合作です。

わたしは見た 幼子イエス。なんと可愛らしく やってきたこと。光の星たちを連れてきた、それが彼の持っているおもちゃだった。

髪の毛は絹だった。それを上げたのはわたしたちのマリア様。ツバメの小さな足で、空の向こうまで歩きまわっていた。

2羽の青い小鳥たち。その目のなかから、彼をわたしは見ました。飛びながら 大地に下りていくのを、うたいながら 空へ飛んでゆくのを。

そこにひとつ、そこにふたつ。3つの小さな星たちが光っている。幼子イエスは進む、星たちの輪で遊びながら。

わたしは見た 幼子イエス。彼の両目は小さな星たち、彼の両手は十字のしるし、彼の小さな足はツバメ。

軽い雲たちが進んでゆく。そして空の星たちが、おたがいどうし言いながら——「わたしの男の子は

わたしのもの」

2羽の青い小鳥たち。その目のなかから、彼をわたしは見ました。飛びながら 大地に下りていくのを、うたいながら 空へ飛んでゆくのを。

そこにひとつ、そこにふたつ。3つの小さな星たちが光っている。幼子イエスは進む、星たちの輪で遊びながら。

わたしは見た 幼子イエス。彼の両目は小さな星たち、彼の両手は十字のしるし、彼の小さな足はツバメ。

軽い雲たちが進んでゆく。そして空の星たちが、おたがいどうし言いながら——「わたしの男の子はわたしのもの」

わたしたちのマリア様。わたしのバラの木。わたしはバラの花でいっぱいになりました、このクリスマス。



Amália Rodrigues

1. 割れた鏡 *Espelho quebrado*

ポルトガル、現代ファド 作詞：ダヴィッド・モウラオン＝フェレイラ *David de Jesus Mourão-Ferreira*
作曲：アラン・ウルマン *Alain Oulman*

作詞者は現代ポルトガルを代表する作家・詩人のひとりです。ファドの歌詞もたくさん書いています。作曲者は、両親はフランス人でポルトガル生まれ。アマーリア・ロドリゲスさんのために、ファドの古い精神を守った新しい曲をたくさん作曲しました。

風は その鞭で湖の鏡を割る。わたしのなかでは、痛手ももっと激しかった。なぜなら風が、通り過ぎてゆくとき、あなたの名前をささやいていったから。それをささやいたあとで、わたしを置いていったから。

あまり速く通り過ぎたので、わたしの悩みを破壊することもできなかった。その悩みの中では、わたしはこんなに堅固。でもそ風の通過は、湖のガラスの表面に刻んでいった、わたしの 奴隷女のイメージを。

おお あなたのいないわたしの両目の クリスタルの液体よ。むなしく嵐に わたしは頼んだ、わたしを喪に服させる鏡が壊れるようにと、わたしの顔が 乾いたものになるようにと。

風は、通り過ぎてゆくとき、あなたの名前をささやいていった。それをささやいたあとで、わたしを置いていった。

2. セミのように *Como la cigarra*

アルゼンチン、新しい歌 作詞作曲：マリーア・エレナ・ワルシュ *María Elena Walsh*

作者は女性で、フォルクローレ歌手から出発し、子どもの歌と劇の作者（そして歌手・俳優）としてTVの超人気番組をつくり、やがて都会のフォルクローレや、社会性をもったいわゆる《新しい歌》の作者となりました。その後は著述などをして、ポピュラー音楽の創作はやめています。

あれほど何度も わたしは殺され、あれほど何度もわたしは死んだ。それにもかかわらず わたしはここにいる、よみがえりながら。

わたしは不運にありがとうを言う、そして ナイフを持った手に。なぜなら わたしを殺すのが あんなに下手だったから。そしてわたしは うたいつづけたから。

あれほど何度も わたしは消された。あれほど何度もわたしは身を隠した。そしてわたしは自分自身の埋葬に行った、ただひとり 泣きながら。

わたしはあとで思い出すために、ハンカチに結び目をひとつつくった。でもやがて忘れてしまった。それ

はただ1度だけではなかった。そしてわたしはうたいつづけた。

あれほど何度も あなたは殺された。それだけ何度も あなたはよみがえるだろう。どれほど多くの夜をあなたは過ごすことだろう、絶望しながら。

そして難船の時に、暗闇の時に、だれかがあなたをよみがえらせるだろう、うたって進んでいくために。

うたってきた、太陽に向かって セミのように 土の下に1年いたあとで。戦争から帰ってくる 生き残った者とおなじに。

3. 石と道 *Piedra y camino*

アルゼンチン、フォルクローレ 作詞作曲：アタウワルパ・ユパンキ *Atahualpa Yupanqui*

作者は、「歩く大地」と呼ばれた詩人・作詞作曲家・歌手・ギタリスト・作家です。この曲は、若いころのロマンティックな放浪の歌い手気分がいっぱい。《サンバ》の形式でつくられています。

山からわたしは下りてきた——道と石。わたしは魂にからみついて 持ち歩いている（わたしの命のひと）ひとつの悲しみを。

わたしがあなたを愛しないと、あなたはわたしを責める。それは言わないでください。たぶんあなたには決してわからないかも（わたしの命のひと）なぜわたしが遠ざかってゆくのか。

わたしが幸せを捜し求めれば求めるほど、わたしは

悩みながら生きる。そして そこにとどまらなければいけないときに（わたしの命のひと）わたしは歩き去ってゆく。

ときには わたしは川のような。うたいながらやってくる。そして だれにも気づかれないように（わたしの命のひと）わたしは泣きながら去ってゆく。

それがわたしの運命——石と道。遠い 美しい夢をめざす（わたしの命のひと）わたしは巡礼者。

4. ながいクリスマス *Amarga navidad*

メキシコ、カンシオン・ランチェーラ 作詞作曲：ホセ・アルフレード・ヒメーネス *José Alfredo Jiménez*

カンシオン・ランチェーラ（農園の歌）は、1930年代からコメディ映画やラジオでヒットした歌謡曲の1ジャンル、もっともメキシコの大衆・民衆に親しまれているものです。この作者は、人間性あふれる歌詞で、1950年代から、このジャンルの表現を深めた偉大なアーティストです。

きっぱりと終わらせなさい、ただの一撃で。どうしてあなたはわたしを 少しずつ殺そうとするんですか？ あなたがわたしを見捨てる日が やってくるのなら、心のひと わたしはそれが今夜のほうがいい。

12月というのは気に入りました、あなたが去っていくために。あなたの冷酷なさようならば、わたしのクリスマスになるように。

わたしは新年を始めたくない、この同じ愛とともに、わたしをこんなに苦しめる愛とともに。

そしてもう、たくさんのことが過ぎた後に、あなたが後悔していて とても不安になっているとき、あなたは知るでしょう、あなたが置いてきたあのものがあなたがいちばん愛していたものだったと、でももう、どうしようもないのだと。

5. 黒い夜 *La negra noche*

メキシコ歌曲 作詞作曲：エミーリオ・D・ウランガ *Emilio Donato Uranga*

作者はひとりの名前で登録されていますが、どうも兄弟で合作したらしく、そのへんが謎なのですが、とにかくひとりにはスペインにも留学した音楽家で、ヴァイオリンやマンドリン、ギターを演奏したとのこと。この曲は、自由リズムながら、5拍子でつくられているめずらしいものです。

黒い夜が そのマントを広げた。霧が出てきた。光は死んだ。そしてわたしの悲しい魂の霧の中に、星のようにあなたが芽を出した。

来て、けわしい道を照らしてください、狂った夢のさまよっている道を。ただわたしに ひとつの希望をください、わたしの心を強くするように。

夜ごとに露が生まれるように、庭に花が生まれるよ

うに、そのようにわたしの魂に、いとしいむすめよ、わたしの愛は生まれた。

もうわたしには見える、窓の向こうに、そのひとの魅惑の天使のような顔がのぞいているのが。わたしは胸の中に感じる、魂のなかにはもう霧はない。もう霧はない、もう太陽が出た。

6. パ・トド・エル・アニョ（これから1年分のすべて） *Pa' todo el año*

メキシコ、カンシオン・ランチェーラ 作詞作曲：ホセ・アルフレード・ヒメーネス *José Alfredo Jiménez*

ふたたびホセ・アルフレードの作品。酒量がハンパでないのは、さすがです！

あなたの愛のために——こんなに望んでいて、こんなに なくてさびしい、あなたの愛のために。わたしにもう1杯、そしてもっとたくさん注いでください。わたしに これからの1年分ぜんぶ注いでください。

わたしは真剣に酔っぱらおうと思っている。わたしがうんと酔っているのを見た人が話したら、誇りをもってその人たちに教えてあげなさい。それはあなたゆえなのだと、わたしはそれを否定しないぐらいの勇気は持っているから。

わたしは叫ぼう、あなたの愛ゆえに、わたしは自分を殺していると。人々は知るだろう、あなたのキスゆえにわたしは敗れたと。

今日からこの先ずっと、もうわたしには愛は興味ない。わたしは世界中でうたおう、わたしの痛みとわたしの悲しみを。わたしはこの打撃から、もう起き上がれないと 知っているのだから。

そして たとえわたしが望まなくても、わたしは愛で死んでゆくだろうから。

7. ロス・ペーセス (魚たち) *Los peces*

スペイン、アンダルシア地方クリスマス民謡 *Villancico andaluz*

カーテンとカーテンのあいだで、聖母様は髪をとかしている。髪の毛は黄金、櫛はすばらしい銀。

聖母様はバラの花を持っている。胸の上に飾ってる。ヨセフ様にもらったもの、クリスマス・イヴに。

聖母様はお洗濯、ローズマリーの木に干している。小鳥たちは歌ってる。ローズマリーに花が咲く。

でもまあ、川の魚たち、なんとたくさん飲んでいる。こと。飲んで飲んで飲んで、また飲んでいる。神様が生まれるのを見たから。

ごいっしょに時間をすごしていただき
ありがとうございました。

またお会いするのを
楽しみにしております。
今後どうぞよろしく。

選曲・構成：峰 万里恵
プログラム作成：高場 将美

◆ホームページ：

<http://mariemine.web.fc2.com/>

◆メール：marie-mine@hotmail.co.jp

1月22日(土)19:00~(開場18時00分)

¡Feliz Cumpleaños! (お誕生日おめでとう)

峰 万里恵(うた) = 齋藤 徹(コントラバス) = 高場 将美(ギター)

特別ゲスト: 喜多 直毅(ヴァイオリン)

Olé

TEL & FAX: 03-3444-3332

チャージ1500円(プラス通常のご飲食料金)

2月11日(金)19:30~(開場18時00分)

メキシコの曲を中心に

峰 万里恵(うた) = 三村 秀次郎(ギター)

= 高場 将美(ギター)

六本木 **Nochero**

TEL: 03-3401-6801

ノチェーロセット2600円
(チャージ+おつまみ1品)

3月26日(土)

精霊たちのつくったうた

峰 万里恵(うた) = 喜多 直毅(ヴァイオリン)

= 齋藤 徹(コントラバス) = 高場 将美(ギター)

東中野 ポレポレ座

詳細は後ほどお知らせします